

平成 30 年 9 月 1 日

公益財団法人庭野平和財団  
理事長 庭野 浩士 様

コード番号：17-A1-192  
特定非営利活動法人マザーリーズ 石井真理

## 平成 29 年度報告書

### 「保育士かけこみ寺」

#### 1. 団体および実施事業の紹介（400 文字程度で簡潔にご記入ください）

当団体は、母親を対象とした独自の mama ほっと line（現在参加者 30 名）の参加者を中心に、母親や保育士による座談会を岡山・東京都内で開催し、子育てアドバイスの他、母親と保育士との相互理解につとめてきた（2016 年 4 月より月 1 回程度開催）。

待機児童問題が声高に叫ばれる中、担い手である保育士は、給与待遇改善にのみ焦点があてられ、事務作業や行事等が生み出す長時間労働の常態化、狭い園での人間関係等の問題が表面化しにくいことが明らかになった。一日の大半を園内で過ごす子ども達の健全な人格を育むために、保育士のトータルな待遇改善は必要である。

そこで、「保育士かけこみ寺」を開設し、多くの保育士の声を拾い上げる。また、単なる愚痴聞きではなく話を傾聴することで、出席者の自尊心の回復につながり、「気づき」を得られるようにサポートする。

具体的には、保育士同士の悩みの共有、匿名アンケート調査の実施、希望者にはマザーリーズ専属の産業カウンセラーよりアドバイスを受けたスタッフによる電話傾聴や line での相談受付、専属の看護師がアドバイスを行うことで（随時）、対応する保育士の自尊心の回復、自己肯定感の向上、健康増進を同時に目指し、現役保育士の現場での健全な活躍と、潜在保育士の現場復帰を支援する。

また、アンケート結果については、将来的に報告書としてまとめ、地方議会等への提言を通じて、待機児童問題・保育士確保問題の一助となるようなアドボカシー活動を行っていく。

#### 2. 社会に伝えたい成果や課題（600 文字程度で簡潔にご記入ください）

女性の社会進出が応援される一方で、その子どもを預かる保育士さんへのサポートはまだまだ不十分に感じております。待機児童問題などで急速にすすめられる新しい園、地域の子育て支援を任せられる園、塾やサービス業のように過度に求められる保育、そういった問題を当事者である私たちが声をあげる事の必要性があるのではないのでしょうか。

日々の業務に疲れている保育士さんに休みの日に集まって頂くことは想像以上にハードルが高く、保育士さんが集まらない事も多々あるが、たった 1 人の保育士さんの声が社会を動かす大きな力になる事を信じて、少しずつではありますが活動を続けております。

また、これまで活動をした中で1番印象深かったのが、一人の保育士さんが業務が辛く苦しい事もあったが石の上にも三年、何事も三年続けないと良いも悪いも分からないと、やっとの思いで3年続け、少しずつやり甲斐もみつきりなんとか6年続けた頃、突然園長が辞め、自身が園長になる事になってしまったそうです。自分はまだ経験が浅いしもっと勉強しなければいけない、園長になるような器でもないし、責任が重すぎて本当は辞退したい、だけど自分が断るとその負担が後輩にいつてしまうし、園がなくなってしまう事を考えると断る事が出来ない。本当は不安でいっぱいだが、受けるしかない、涙ながらに語っていた保育士さんがいました。

今回行ったアンケート活動では、結果として多くの意見を集めることが叶いませんでしたが、社会の大切な仕事を支えるための保育園であり、その担い手となる保育士さんを支える活動としてのアンケートであることを忘れてたくないという意見もありました。一つの意見でも、これからも続けていくことができればと思います。

以上